

くしゃみや鼻水が出るため、「風邪をひいたようです」と来院される患者さんをよくお見掛けします。猫の場合、ウイルスや細菌の感染によってそうした症状が現れることが多いのですが、犬の場合、意外にも口内の病気によって起きることがあります。



長井 崇典

口と鼻の間に穴

口内の病気でよく知られているものに「歯周病」があります。歯周病とは、歯垢中の細菌によって引き起こされる歯肉炎や歯周炎を指します。歯周病が進行すると、歯と歯肉の間に「歯周ポケット」と呼ばれる溝ができて、そこに歯垢や歯石がたまるため炎症がさらに深い部分へと進み、ついには周囲の顎の骨を溶かしてしまいます。

特に上顎で歯周病が進行した場合、口腔（口の中）と鼻腔（鼻の穴の内側）を隔てている骨が薄いため骨が溶けて口と鼻の間に穴が開き、つながってしまふことがあります。このように口腔と鼻腔が貫通してしまつた状態を「口腔鼻腔瘻」と呼びます。放置しておく、慢性的な鼻炎、副鼻腔炎、肺炎などを引き起こしやすくなるため早めの治療が必要です。どの犬種にも出現しますが、トイ・プードル

口腔鼻腔瘻

マイム犬猫病院院長  
(射水市小島)

歯周病が引き金に

ルやミニチュア・タックスワントといった小型犬種に発生が多いと報告されています。数は少ないのですが、猫にも起こりうる病気です。

口腔鼻腔瘻のもう一つの怖い点は、発見が遅れがちになることです。診察室で歯のチェックをする際、原因となっている歯が残っていると、口腔と鼻腔が貫通した穴を肉眼で確認できないからです。この病気を確実に見つけるには、全身麻酔をかけて口内を念入りに調べた後、歯と顎のレントゲンを撮る必要があり

ます。

膜を使って穴を閉鎖する手術を行います。写真のワンちゃんも重度の口腔鼻腔瘻が認められ、手術をしました。来院当初は、くしゃみや鼻水のほかに鼻血も流していましたが、手術後はそれらがヒタリと止まり、4カ月経過した現在も再発は認められません。しかし、口腔鼻腔瘻が形成されてからかなりの時間が経過している場合は、原因の歯が既に抜け落ち、歯肉に大きな穴が開いたままになっていま

す。この病気にならないようにするには、毎日の歯磨きで歯周病を防ぐことです。犬や猫が小さい頃から、口の周囲を触り、歯磨きを嫌がらないように慣らして



抜歯後に確認できた口腔鼻腔瘻

根治には手術

口腔鼻腔瘻を根本的に治療するには、原因となっている歯を抜き、その歯の周囲の歯肉や粘



上顎を手術した犬。口腔鼻腔瘻の根治には手術が必要となる

で、より確実な予防法として、動物病院で麻酔をかけて行う歯のスクリーニング（器具を用いての歯石の除去）があります。歯をきれいに保つと「犬・猫の寿命が延びる」という報告もなされていますので、根気強く歯の管理をしてあげたいものです。

人間の言葉を話せない犬や猫は、痛みや苦しみを私たちに伝えることができません。じっと我慢し続けるために症状が重くなるまで気づかれないのです。どうか、日頃から歯の汚れや口臭にも注意を払い、小さな異変を見逃さないようにして、大切な伴侶動物の健康を守ってあげてください。

◇ 「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第一木曜日に掲載します。